30. 通院中断後糖尿病性ケトアシドーシスで来院し経過中インスリンアレルギーが疑われた2型糖尿病の1症例

梶由依子（上都賀総合）

血糖コントロール良好で薬物療法を離脱後，DKAを発症した症例を経験した。経過とインスリン分泌能より2型糖尿病と考えたが，誘因は確定できなかった。インスリン抵抗性の存在が示唆され，インスリン分泌を低下させる因子の負荷によるインスリン作用の低下がDKAを生じた可能性が考えられた。経過中全身性のインスリンアレルギーを疑わせる皮疹を生じ，インスリン皮内反応は陽性でDKAの誘因の検討は治療に重要と思われた。

31. 呼吸筋病変により重篤な低換気をきたした横紋筋融解症の1例

玉地智宏，若林良則，鐘野勝洋
田村　憲，林　良明（沼津市立）

＜症例＞72歳女性。99年4月から高脂血症に対してpravastatin 10mgを処方されていた。00年1月，上気道炎症状発症2日後に全身の筋肉痛，胸部痛，褐色尿を自覚し来院。CK44000IU/Lで横紋筋融解症と診断した。来院後急速に意識障害が進行し，低換気に陥りICU管理を要した。ショック・急性腎不全から回復し，第25病日に人工呼吸器，第26日病日に透析から離脱した。肋間筋生検にて横紋筋融解を認めた。

32. 腹腔動脈閉塞を認めた成人小腸間膜嚢胞性リンパ管腫の1例

茂田あずさ，金子堅太郎，矢沢実生
伊藤健治，金田　暁，島田典生
高梨秀樹，内海勝夫，小林千鶴子
武者廣隆　（国立千葉）
青木靖雄　（同・外科）
高沢　博　（同・病理）

症例は42歳男性。左自然気胸の軽快後，左季肋部痛が持続し受診。腹痛精査の過程で大動脈の左側，膵尾部より背側に径40mmの腫瘤を認めた。超音波では多房性低エコー，CTでは辺縁平滑なlow density，MRIではT1 low，T2 high intensityであった。ERCPでは膵管に不整無く病変と交通せず。血管造影にて腹腔動脈根部が閉塞し，SMAから肝動脈，脾動脈が造影された。開腹にて小腸間膜より白色乳びの内容物を含む腫瘤を摘出し，嚢胞性リンパ管腫と診断された。

33. 門脈圧亢進症を呈した非ホジキンリンパ腫の1例

湯浅奈都江，深澤元晴，小田佳世
小山秀彦，安原一彰，仲野敏彦
伊藤文憲，久満董樹　（船橋中央）
武藤高明，豊沢　忠　（同・外科）
根本和久　（同・放射線科）
近藤福雄　（同・病理）
吉川信夫（同・健康管理センター）
小野田昌弘　（千大）

62歳男性。慢性好中球性白血病にて加療中，吐下血出現。平成12年1月傍大動脈に腫瘤あり入院。脾腫，白血球増多，貧血，血小板減少，可溶性IL-2 receptor高値，胃静脈瘤，骨髄骨髄球系過形成。腹腔動脈周囲14cm大の腫瘤，発達した側副血行路。開腹リンパ節生検にてびまん性大細胞Bリンパ腫（CSⅡ）の診断。CHOP 6コース，放射線療法を施行。治療効果CRu。静脈瘤も改善。慢性好中球性白血病に合併した門脈圧亢進症を呈した稀な悪性リンパ腫を経験。

34. 骨格筋に著明な浸潤を示したホジキンリンパ腫の1例

小田佳世，深澤元晴，湯浅奈都江
仲野敏彦，伊藤文憲，久満董樹
（船橋中央）
木元正史　（同・整形外科）
根本和久　（同・放射線科）
近藤福雄　（同・病理）

19歳男性。平成11年12月腰痛出現。発熱，リンパ節腫脹あり，平成12年2月入院。貧血，両側頸部・腋窩・鼠径部に多数リンパ節腫脹。白血球増多，可溶性IL-2 receptor高値。MRIで第4腰椎椎体，腸腰筋に広範囲T1 low T2 high Gdで増強病変。頚部リンパ節生検でホジキン病（NS）。骨髄浸潤，縦隔リンパ節腫脹（CS IVB）。ABVD 6コース施行。腰椎椎体に残存病変あるが，腸腰筋は改善。効果はPR。放射線治療追加。稀な筋肉内浸潤を呈したホジキン病を経験。

35. シクロスポリンが有効と思われた血球貪食症候群の1例

鈴木啓司，王　伯銘，花岡和明
（井上記念）

(1)発熱は軽度で自覚症状も軽く済んだが，汎血球減少状態が遷延した血球貪食症候群の1例を経験した。

(2)プレドニゾロンにシクロスポリンを併用したところ著効を示した。